

平成 27 年度 第 2 回学校関係者評価報告書

鳥取県立境高等学校

学校長 池田 洋二

評 価 ・ 提 言 ・ 指 摘	学校の所見・改善策等
1. 今年度の自己評価について ①（一人一人を大切にした進路実現に向けて）校内模試の受験形態はどうか。少人数でも受験できるのか。 ②（授業改革について）学習効果が大きかったという多読授業の内容を具体的に説明してほしい。 ③（授業評価について）英語はとても大切な教科であるはずなのに、生徒による授業評価アンケート結果からは「英語は将来役に立つ」と思いながらも、授業が「理解できる」などのポイントが低い、その改善策は？ 2. 特色ある学校運営の状況について ①（境港地区での校種間連携として）境港地区から他の地区へ出て行かず、境港地区内で境高を中心とした進学体制が整った学校づくりを進めてほしい。そのためにも校種間連携を深めてほしい。 ②（単位制高校として）単位制高校として境高の特色の一つにもなろうが、授業で「中国語」・「ハングル」を選択した生徒の育成を図ってほしい。 3. 取組改善のための提言 ①境高に入学したいという中学生を多く育てたい。部活や英語を軸とした取組や環境活動でも境高と地元中学校が連携を進めていけばよいのではないかな。 また、境高は吹奏楽がとても盛んで小学生にもぜひ生の演奏を聴かせたい。また境高生が挨拶運動を展開しているが、高校生のイメージをととても良い方に変えてくれた。 ②勉強だけがすべてとは思わないが、子ども（高校生）が、	①生徒の目的別に対応している。少人数模試も実施。 ②生徒のレベルによって読む本は異なる。繰り返すことで語彙がかなり身につく、C T のリスニングでは全国平均を超えた。 ③境港地区で英語のスクラム教育を展開し、校種間で英語の目標を統一している。地区全体で課題として取り組んでいる。 ①中一、中三学習会、スクールプロジェクトなど地元の小中学生が境高に来て学ぶ取組も 10 年目を迎え、文科大臣表彰を受賞した。学力育成は校内委員会でも来年度に向けて具体策を協議中。 ②中国語選択者のうち 5 名が台湾の学校へ訪問し国際交流で成果をあげた。 ①できるところは小中とも連携を広げたい。さまざまな機会をとおして（たとえば保育実習等で幼保とも連携し）境高のイメージをアップしたい。 ②講演会等を多くして外部

いま自分がどんな位置にいるかわかっていないのではと保護者の立場として思ってしまうので、社会から学ぶこともしてほしい。	の活力を生徒に直接伝えてもらっている。
③小学校の家庭学習が平均1時間30分というデータもあるが、高校生の家庭学習の時間が少なすぎるのではないか。他校では週一回確認テストを実施している。家庭学習の内容も小学校と高校では異なるだろう。家庭学習時間の少ない高校生は何をどうしてよいかわからないのではないだろうか。部活で毎日遅く帰宅している実態はあろうが、毎日勉強する習慣もつけさせてほしい。	③境高は目的別クラス編成を展開している。一方、週明けテストを実施し、その結果が生徒自身の励みにもなっている。生徒自身が意欲・関心を高め、どんどん自分で学習を広げるような授業を本校は創造したい。
(※平成28年2月2日(火) 創立記念日 午後3時から4時30分 かしのは会館会議室にて)	